蘇爾且齋篤の領有

七十年間經營せし所のものは、概ね數日ならざるに、之を破壞し去りて、其の喀什噶爾の如きは、實に慘憺を極むるの餘り、遂に舊態に復し得ざるに至りしと云ふ。

明の末世、南北兩路を領有せしは蘇爾且齋篤とす。彼は成吉思汗の子孫にして啻に四境を平定せるのみならず、遠く西藏の征討を企てしも、軍粮を得ること能はざるを以て、一旦其の行進を止め、其の子伊蘇罕的爾に四千の兵を與へ、疾く克什密爾に赴かしめ、自ら兵一千を率ゐて空爾的に停り、夏季を待て其の軍を併せ、西藏に侵入し、直に拉薩府を占領し、歸路、喀喇崑崙を距る遠らざる處に於て、瘴氣に中りて死去せり。

阿都喇汗の布教

次で土耳其の回教宣教師阿都喇汗と云ふ者、吐魯番に來りて布教す。彼に九子あり。長を阿布都喇、次を阿布勒阿哈默特、三を賽伊特、四を拜巴汗、五を瑪哈默特蘇勒且、六を沙汗、七早く夭す、八を伊瑪業勒、九を伊卜喇伊木と云ふ。而して長子は葉爾羌に、二子及三子は、父に嗣で吐魯番に、四子は哈密に、五子は喀什噶爾に、六子は庫車に、八子は阿克蘇に九子は和闐に在りて、各、宣教の事に任せり。然るに第五子瑪哈默特蘇勒且は、衆望他を壓したりしが、渠の喀什噶爾に到るに及び、其の信徒を使

回部王の濫觴